



●水痘が注意報レベルになりました!!●

51週の定点医療機関あたりの患者報告数は、1.69人(定点数16ヶ所、患者報告数27人)となり国が流行の目安としている1.0人を超えています。水痘-带状疱疹ウイルスによる感染症で「みずぼうそう」として知られている病気です。年中みられますが、12月～7月に多い傾向があるため、これからも注意が必要です。9歳以下に多くみられます。(水痘は平成30年9月の36週から、注意報レベルが4⇒1へ。警報レベルが7⇒2へ変更になりました。)

◆どんな病気?

【症状】全身性のかゆみを伴う発疹と、38℃前後の発熱が主な症状です。発疹は、まず赤い斑点ができ(紅斑)、次第に盛り上がり(丘疹)、水ぶくれになり(水疱)、かさぶた(痂皮)になります。これらの紅斑、丘疹、水疱、痂皮のそれぞれの段階の発疹が混在しているのが特徴です。通常、軽症で終生免疫を得ることが多いですが、ウイルスは治ったあとも体の中に潜伏していて、後に「带状疱疹」として再発することがあります。

【感染経路】空気感染、飛沫感染、接触感染。すべての発疹がかさぶたになるまで感染力があります。また、感染力も強く、1人が何人に感染させるかを示す数値(基本再生産数Ro)では、インフルエンザが「(Ro) 1-2」に対し、水痘は「(Ro) 8-10」と、インフルエンザの約5倍の感染力があります。

◆かかったらどうすればいいの?

・治療は塗り薬が中心になります。重症の場合もしくは重症化の防止として、抗ウイルス剤を使用することもあります。

・熱が高いときは特に、水分をしっかりとらせ脱水にならぬように気をつけましょう。発疹が出たあとも高熱が続いたり、ぐったりしているときは早めに医療機関を受診しましょう。

・水痘は、学校保健安全法により第二種の感染症に指定されており、登校基準は原則としては、すべての発疹が痂皮(かさぶた)化するまで出席停止とされています。(病状により、医師が感染のおそれがないと認めたときを除く)

◆予防法は?

・予防接種が有効です。2014(平成26)年10月1日から、水痘ワクチンが定期接種となりました。

期 間		平成30年 50週		平成30年 51週	
		12/10～12/16		12/17～12/23(最新)	
疾患名 <small>(百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		51	2.04	126	5.04
RSウイルス感染症		2	0.13	7	0.44
咽頭結膜熱(プール熱)		5	0.31	1	0.06
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		44	2.75	32	2.00
感染性胃腸炎		126	7.88	132	8.25
水痘(みずぼうそう)		7	0.44	27	1.69
手足口病		14	0.88	10	0.63
伝染性紅斑(りんご病)		5	0.31	1	0.06
突発性発しん		5	0.31	8	0.50
ヘルパンギーナ		1	0.06	1	0.06
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		0	0.00	0	0.00
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		11	2.20	17	3.40
細菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	1	0.20
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00